



コースNO.75森林公園から嘉瀬町の北部を歩く

起点 森林公園駐車場  約5.2キロ平坦なコースです
見所 長崎街道、史跡、田園風景

コース概略

- ① 国道を渡りすぐ先に俊寛僧都の墓
- ② 長崎街道を歩く
- ③ 別れの松（嘉瀬の刑場に行く罪人と見送りの人が最後の別れをする場所）
- ④ 鍋島勝茂建立の四面神社一の鳥居
- ⑤ 四面神社・佐田神社
- ⑥ 道祖神
- ⑦ 日子神社（コンパクトな鳥居が印象的）
- ⑧ 荻野の六地藏（室町時代、県内最古の造立銘）
- ⑨ 乙護神社
- ⑩ 富泉院 
- ⑪ 田園風景を楽しみながら、佐賀に暮らす幸せを噛み締める。ゴールへ



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



⑨



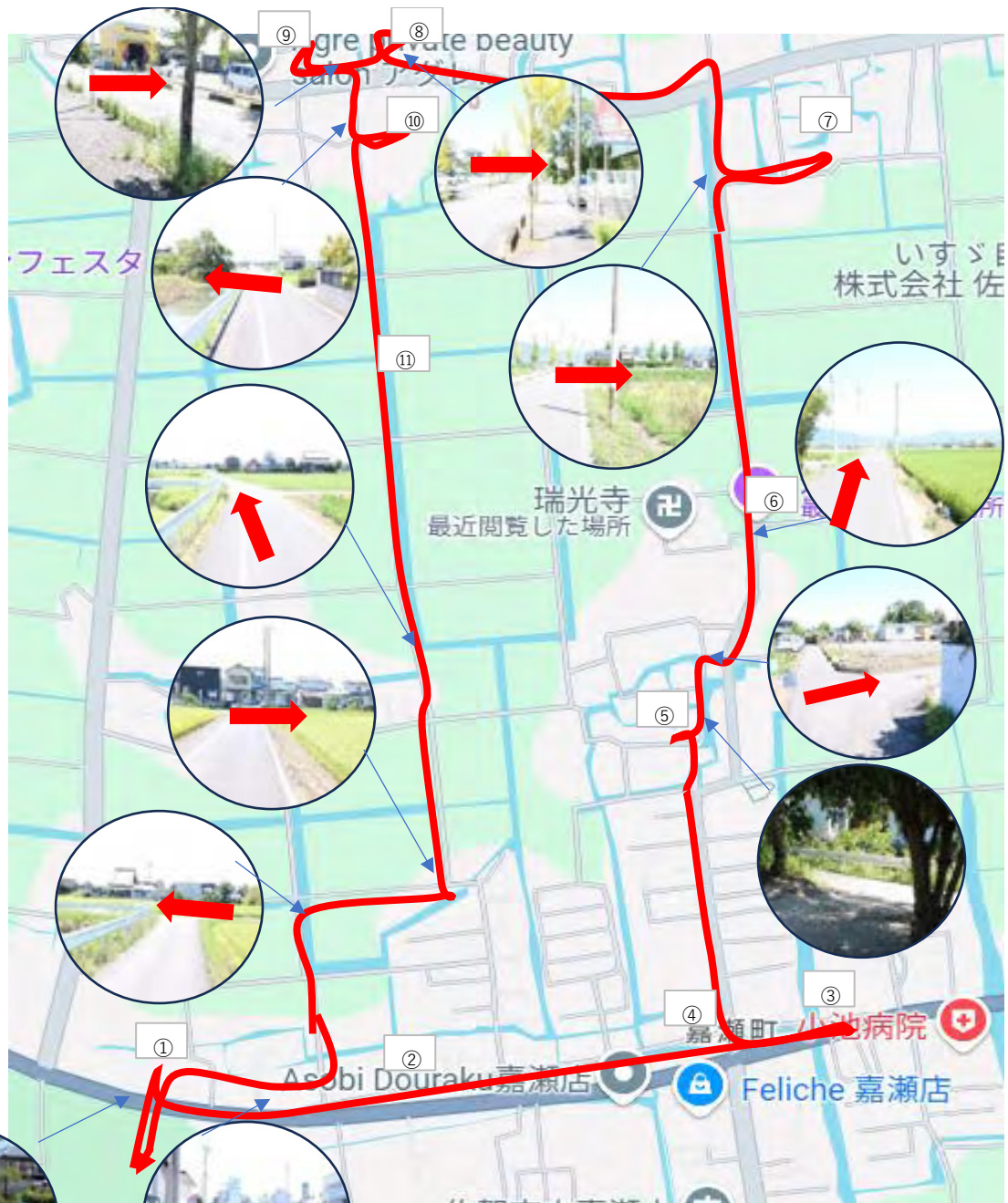
⑩

①俊寛僧都について、案内板より。

治承元年（1177）、京都東山鹿ヶ谷の俊寛の山荘で、平氏討伐の謀議、鹿ヶ谷事件に荷担した丹波少将成経、平判官康頼、京都法勝寺執行俊寛僧都は、鬼界ヶ島（薩摩）へ配流された。翌2年、成経、康頼は赦免され、帰京することとなった。その帰途、平敦盛の領地、肥前鹿（嘉）瀬荘まで俊寛を伴い、この地に俊寛をとどめ京都へ上がった。俊寛は、荒木乗観入道の保護を受けながら配流生活を過ごしていたが治承3年、この地で没した、と伝えられている。（以下省略）

③別れの松について、案内板より

刑場に曳かれる罪人が、ここで見送りの肉親や知人と永遠の別れを告げねばならなかった。そこで別れの松と呼ばれていた。早朝、白衣にまとった姿で獄屋を出された罪人は、この松のところに籠を止めて見送りの者と別れの水盃を酌み交わすことを許されていた。明治になり、嘉瀬の刑場が廃止になっても「別れの松」は代々植えつがれ今に残されている。



歩道を渡り直進



左方向に長崎街道

⑨乙護神社、案内板より

・・・字歴年（1066）前山治部小輔利信が厳島神社の分霊を勧請したと伝えられ
建武元年（1334）平胤貞が田地数十町歩を寄進し祭礼を行っていたという・・・

⑩富泉院

令和6年4月のセカンドウォーク下見に、3月7日に寄らせてもらう。コース上に
トイレが無いことから、借用のお願いをしたところ、気持ちよく引受けていただいた。
椿がとてもきれいで、奥様が久留米市出身と言われたので、草野ですかと聞いたら、
その通りだった。そして、草野の街と佐賀高木瀬とのご縁、お寺の創設は菅原道真公の
縁者であること、⑨の乙護神社の世話をされてきたことなど教えていただいた。

写真撮影は9月1日